

総社市教育委員会会議録

- 1 開 会 平成30年7月23日 午後 2時 5分
- 2 閉 会 平成30年7月23日 午後 3時32分
- 3 場 所 総合福祉センター2階 資料展示室

4 出席又は欠席した委員

出席委員

教育長	山 中 榮 輔
委員長職務代理者	林 直 人
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	三 宅 眞砂子
委 員	上 岡 仁
委 員	児 島 塊太郎

5 会議に出席した者

教育部長	服 部 浩 二
参事兼庶務課長	弓 取 克 哉
学校教育課長	北 川 和 美
こども夢づくり課長	小 野 玲 子
生涯学習課長	横 田 優 子
参事兼文化課長	永 田 忠 幸
庶務課主幹	平 田 壮太郎
学校教育課主幹	井 上 徹

6 会議録署名委員

山 中 榮 輔	三 宅 眞砂子
---------	---------

7 付議事件

議案第20号 平成31年度使用中学校教科用図書の採択について 原案可決

8 議事の概要 別紙のとおり

開会 午後2時5分

山中教育長 ただいまから教育委員会を開会いたします。この委員会には議案1件が付議されておりますが、議案第20号については、議事の都合により、本日の日程の最後にしたいと思っておりますので、ご了承願います。まず会議録の署名委員についてであります。署名委員は規則第16条の規定により、私のほか、出席委員中、三宅委員にお願いいたします。

山中教育長 では、教育長報告をいたします。7月6日から約2週間経ちますが、水害対応といいますか洪水対応に忙殺されている感じでありまして、やっのごみ出しと収集、運搬処理がほぼ終了時期がみえてきたという感じでありまして、ここでほぼ第1ステージが終わったという感じですね。次のステージは復旧に向けた仮設住宅とか、資材がだめになった方、家屋にダメージを受けた方など、そういうことも含めて仮設住宅の建設等々、次のステージ、復旧のステージに入るのではないかと思います。市長は仮設住宅を8月中には全部造るようと言われておりますけれども、その内容につきましては後ほど服部部長の方からご説明をさせていただきます。では次に報告事項に移ります。岡山県学力学習状況調査の結果について事務局から説明をお願いいたします。

北川学校教育課長 【事務局説明】

井上学校教育課主幹 【事務局説明】

山中教育長 それでは、ただいまの事務局の説明に対するご意見がありましたらお願いいたします。

上岡委員 標準偏差で表しているところを見て少し安心したんですけど、やっぱり標準偏差が12ページから出ていますよね。ここが通常すごく頑張っているといいんです。点数だけでは分からないから。標準偏差で表すと小学校は、小5は国語はそうでもないんですけど中学校は明らかに伸びが49.7から51.3だったり、49.8が52.3だったりしているんでね。それから英語も心配していたけど52ポイントまで出てるんで、概ねよく頑張ったと思いますけどね。いろんなことの施策が利いてきているんだろうと思いました。だけど、説明にはなかったけれど、10ページにあるように、がくと落ち込んでいる学校がありますね。それについて、伸びた学校は説明してくださったんですけど落ち込んだところもちょっと説明してくれますか。どう分析されてますか。

井上学校教育課主幹 具体的なところで阿曾小学校。阿曾小学校につきましては、平成20年、そうですね5年前に実はこのようなグラフを作ってトップでした。なぜトップだったかというのは、阿曾小学校は2つのキーワードでやってきていたんです。それは、1つは基礎基本の徹底、もう1つは落ち着いた学習環境づくり、この2つでした。残念ながら先日も学校訪問に行きましたが、この2つともが、もう5年経ってうまく機能していない、先生方の意識が低下している、ということが分かりました。落ち着いているということに安心していただけではないんでしょうが、阿曾小は、かつて学級が荒れた時期があって、その反省から平成25年、6年にかけてその2つを生活習慣も含めてですね、掃除の指導であるとか靴

揃えであるとか日常生活もセットで取り組んでいたんですけれども、残念ながらそういった徹底が少しずつ薄れていくこともあって、阿曾小学校は右肩下がりになってきていると理解しています。これについては先日も指導してきました。もう一度5年前の目線に立って初心に戻ってやっていこうと学校長にも確認してきた次第です。

総社小学校については、教科によって実は差があって、なぜこれがこんな結果になるのかというのはなかなか分析しきれいていません。逆のパターンは見えて取れるんです。例えば、池田小学校の国語がぐんと上がっているんです。54.4まで上がっているのが分かりますでしょうか。48.いくらからか。この学校のこの年の担任は国語の基礎に本当に力を注いでいた担任でした。単学級の学校というのはこんな風に分かりやすく出るんですけども、総社小学校のように4クラスあって母数がかなりある中で算数と国語でこれだけ差が出るというのは、私もちょっと分からない状況です。ちょっとこれは細かく分析したいと思います。

上岡委員 あともう1ついいですか。今まででしたらね、例えば小数が弱いとかですね、算数で言ったらこれが弱い、分数小数とか。それから国語だったら基本的な漢字の読みとか、そういう部分はどういう風にクリアされましたか。アバウトでできているが、書くところですとかね、そういうところは弱いとご説明されたけど、どのように対処されたのか。

井上学校教育課主幹 例えばですね、池田小学校というところは漢字のテストを毎回やっていたんですけど、学年によって差がありました。それは、管理職が作った漢字の問題を担当がやるんですけども、担任の温度差がこんな資料を、今、作っています。これは、それぞれの学校が成果と考えているところ課題と考えているところをすべて表にしてリストにしています。これを基に、今度、学力調査の担当者会で協議をする予定にしております。こういったところが弱いのか強いのかというあたりは、学力の担当者と一緒に考えていきたいと思っています。

上岡委員 もう1つだけ。自分に良いところとか、夢とか希望とかあるいはキャリア教育に関わるのところはどう改善されていくんですか。

井上学校教育課主幹 21ページをご覧ください。あわせて20ページも。一番下に経年変化を付けています。例えば、自分には良いところがあると思うという回答については平成29年度は上から77.0, 75.0, 71.3でした。今年度30年度はそのような状況になっています。同じく将来の夢や目標を持っているという回答についても右肩上がりとか改善傾向、上昇傾向にあります。キャリア教育の視点というのは、特に総社中学校を中心に昨年研究会を行って、これについての重要性というのは、それぞれの小中学校に持ち帰って実践をしているところだと思いますので、これがどこまで上がっていくのかというのは分からないんですけども、今のところほぼ目標値をクリアしつつある状況にあるので好結果が得られたのではないかと思います。

上岡委員 20ページのほうは、もうちょっと対処が必要ですね。

井上学校教育課主幹 特に中学生になるにつれて、この自尊感情というのは少しずつ下がる

傾向というのは関係するとも考えられます。

山中教育長 ほかにございませんでしょうか。

林職務代理者 学力といったときにですね、先生方の力量というのももちろん一番重要な部分かなあと思うんですけれども、保護者との連携をどういう風に図っていったのか。それから地域のそういった外部の指導者の活用とかですね、上手にそういったものやっっていくというのが、これからの方向かなあと思うんですけれども。その点どう言うんですかね。こういう風な良いケースの事例があるよというのがあったら教えていただければなあというようなことを思っています。

井上学校教育課主幹 まず、保護者との連携ということなんですが、2つ事例をお伝えしたいと思います。1つは、家庭学習。いわゆる宿題プラス自主学習ということで、これまでは学校の先生が出した宿題をやって先生が丸付けをするという状況だったと思うんですが、これが一貫ウエスト西中学校ブロックでやっている自主学習の認定書というものです。要するに、どんどん自主学習を積み重ねていって証明書をもらうことで子どもたちの成長が見て取れます。努力が見て取れます。さらにこれを保護者に渡すことで、家庭でも子どもたちがどんな学習をしているのか、先生方がどのようにその子の努力を認めているのかということを通理解、つまり学校で行われていることを積極的にアナウンスすることで家庭との連携を図っていきこうという取り組みを1つは行っています。それから、外部の指導者ということなんですが、今、放課後学習サポート事業を総社市では行っています。小学校が7校、中学校がすべての学校です。半分以上の学校がこの事業に手を上げて、外部の指導者、退職された先生方であるとか地域の人材を活用して学習に取り組んでいます。導入時には完全に指導者にお任せの状態スタートしたというふうに記憶をしていますが、例えば神在小学校では、それぞれの子供がどんな課題があって、そのためにこういうプリントをして欲しいというのを放課後学習の先生方に渡して、実際には丸投げではなくてPDCAをその放課後学習サポートのなかでもまわしていく、そういう事例があります。もちろんそれがうまく機能していない学校もあるので、そのために学力担当者を集めて放課後学習サポートがうまくまわる手立てとしては神在小がモデルになりますよ、というような共通理解を図るようにしています。以上です。

林職務代理者 今ですね、放課後学習サポート事業というのを言われましたけども、放課後児童クラブとか放課後学習支援とかマザーブースみたいなあいうふうなものがありますが、あいうふうなものも段々質が求められているといった時にですね、この夏休みの間ですね、そこでの取り組みというのも結構ですね、2学期以降効いてくるのかなあということだと思うんですけども。まさにそのどう言うんですかね。単なるその安全な安心という部分で子どもたちを俗に言う擁護するだけではなくて、積極的に学習という場面で活用するというふうなことが出来れば、非常に総社としてはまた万全なと言うんですかね、学力面では非常に一歩二歩前進するんじゃないかなあという感じがいたしますが、人的な部分があるか

も分からないので大変なんですけど。いろいろとアイデアを出してみたら学校全体として良いんじゃないかなあとと思いますが。

井上学校教育課主幹 例えば東小学校であれば県立大学と連携しています。常盤小学校は総社南高校の生徒さんがサマースクールに来てくださっています。地元の学校区にある、例えば高校であるとか大学であるとかの連携は、以前よりも進んでいます。これは校長に聞いたんですけど、憧れの存在が近い、年齢が近くて憧れの存在であるお兄さんお姉さんから教えてもらうということは、子どもたちにとって好影響があると言っていますので、今後も探っていきたいと思います。

上岡委員 いろんな施策が効いてきているんだろうと。働き方改革もありますんで、先生だけに負担がいかんようによろしく願います。西中と東中でなんか授業されている、これは学習時間に関わらず、学習習慣の低下だと思うんですけど、それがちょっと説明していただけますか。

井上学校教育課主幹 この度、学習習慣形成モデル授業という岡山県の事業を2つの中学校で行っています。1つは総社東中学校、これは単独です。西中については西中学校区、小学校も含めて幼稚園も含めてやっています。これは先ほども申し上げた小学校の学習習慣が中学校まできちんと引き継がれていない、ここの部分を解消するというのが1つなんですけれども、もう1つは、例えば先生方、中学校の先生方の宿題の出し方ひとつをもう一度見直してみませんかというような細かいところも取り組んでいます。具体で申し上げますと、東中学校、西中学校、中学校の宿題というのはポーンと一冊こんな厚い宿題が出て、これを出すのは1か月後ですよとか半月後ですよというようなことに取り組んでいるんですけども、例えば西中学校区でその話をした時に、実は小学校では1日1日毎日先生たちが宿題をチェックしても、短いスパンの中でチェックして返す、コメントを入れて返すという取り組みをやっていきます。これを例えば西中学校では、今までやっていた宿題の出し方を見直して、要するに短いスパンの中でチェック、子どもたちが達成感を味わえるようなスモールステップにしていって学習習慣を身につけるということをやっている。これがうまく、例えば全国学区学習状況調査であるとか岡山県の調査であるとかに好結果に結びつけば、相関が見られるのではないかと取り組んで行っています。ちょっとまだ説明足りないんですが大丈夫ですか。

上岡委員 ちょっとだけいいですか。小学校はおそらく朝か帰りでやってると思うんですけど。信じてますけど。中学校で朝学習か夕学・帰りの会の時に、ちゃんとそういうふうなことをしてますか。4中学校。おそらくそれやったらもっと効率的んじゃないかなあと思うんですけどね。だって部活動へ出たくてしょうがないんで、早く帰りの会終わってくれみたいな感じなんです。おそらく10分間でも。でもそこであえてですね、ちょっと今日の、あるいは2週間前にやった問題をちょっと1問だけでもやってみようか、出来たら部活出ていいよ言うたら、それが悪い言うんじゃないんだけど、やっぱり動機付けになってね、やるんですよ。たったそれだけでも違うと思うんですけどね。それはどうですか。

井上学校教育課主幹 中学校のこれも西中学校なんですけれども、放課後に残って学習するのはいくつかパターンがあるそうです。1つは本当に学力的に低位な子どもを救うため、ピンポイントで先生が今日一緒に放課後学習するよってことで、その子の状況に合わせて強制的にというんですかね、ピックアップして放課後学習を行うパターン。2つ目は課題の提出ができていない子、要するに部活に行きたい子もいるでしょうが課題の提出ができていないと部活は行けませんよ、こういう形で放課後学習を行っている。それから3目つは、自主的に学びたい子どもたちがいます。いわゆる本当に純粋な放課後学習サポートです。なので放課後学習も3パターンあって、これをうまくまわしているんだということを西中の先生はおっしゃっていました。実際には、この1番目2番目が効いてくるんじゃないかと思います。そうすることで低位の子は救われてくるとは思っています。

上岡委員 濱田先生はどういうふうに思われますか。違う考えですか。

濱田学校教育課指導主幹 中学校の現場に昨年度までいました。その中学校自体は、やはり今言われたように部活動に参加したい生徒は本当にたくさんいました。それを定着させるのは現状としてなかなか難しいと思います。学習が済めば終わる、これも意味がなく、単に消化して終わるのではなくて深めていくとこまで追及するというのも課題と思っています。やって終わりではなく、そこで完全に理解して終わらせることが今後の課題だとも思っています。

上岡委員 そうなんですけども、それまで出来てない学校があったら困りますよね。そこを言ってるんですけどね。先生方の意識がどうなんですかね。校長先生のガバナンスがちゃんといってますかという話です。

濱田学校教育課指導主幹 徹底はされています。が、なかなか教員間でも学年によってはという温度差があったのは正直なところですよ。

井上学校教育課主幹 今、指導教諭は東中と西中で兼務をしている者がおります。この兼務をしている者がそれぞれの学力担当であるとか管理職であるとか、それぞれの学校の状況の情報交換をしていますので、先ほどのガバナンスのほうですね、管理職の考えであるとかそういうところもできるようにしていきたい。授業改革推進チームというのもありますので、そのなかでも徹底していきたいと思えます。

山中教育長 東中と西中が逆転したんですよ。というのはマネジメントスタイルの差が端的に現れたことに尽きる。だから一度だめになったものを取り返そうと思うと倍かかる。今はその中間ステージに東中はあると思う。西中がやはりそれだけのことをやってるという、ただあれだけ荒れていた学校がここまでになったというのは西中を褒めないといけな。システムもすばらしい。校長先生がそういうことを考えてやってこられたんだと思います。

どこかで壊れると元に戻すのはすごく大変なことです。西中は校長のリーダーシップが素晴らしいから成果が上がっています。大いに期待するところではあります。

山中教育長 ほかにありませんか。よろしいでしょうか。

(質疑なし)

山中教育長 それでは次に6月議会の報告と、今回の西日本豪雨における被害状況について服部部長からお願いします。

服部教育部長 それでは災害の関係からのご報告、ペーパーがありませんので口頭で失礼いたします。今回の災害は、平成30年7月豪雨という名称を気象庁が正式に付けておりますが、ご承知のとおり総社市の災対本部が7月6日、非常に雨が強くなっておりまして7月6日の9時45分に設置されて現在継続中ということであります。大雨に関する特別警報の発令ですとか土砂災害の警戒情報、高梁川の水位上昇等の状況から、その当日夜に全域に避難勧告を出させていただいたという。避難者、最大の時ですと、きびじアリーナに7000人の避難者を抱えておりました。現状ではかなり落ち着いてきまして、今の避難所、避難者は11か所に628人の方々が避難所にまだいらっしゃる。内訳で言うと、実は真備から避難されてる方が479名おられますので、8割がたが真備からの避難者を受け入れている状況。それ以外では、総社市の下原、昭和地区の草田、作原、美袋地区など、非常に水害、それから下原でいきますと朝日アルミの事故の関係もありまして、約150人がなかなか帰る家が無くて避難所の生活をまだ送られているという状況でございます。こういった大きな災害、総社市でも数十年ぶりだろうと思います。実は高梁川の水位というのは上流のダムの放流で急に上がりまして、警戒水位とか避難勧告の水位とか順番に定まっております、一番最後には堤防が持ち堪えられる計画水位が最後のラインとしてあるんですが、これは13メートルほどですが、実はそれはもう超えておりました時期があつて、真備の方で小田川が大変なことになりましたけれども、実は総社市もぎりぎりのところで今回は助かったというような状況でした。もし、高梁川がこの辺り切れておきますと、本当に数万人単位の避難者をどうするかという本当に大災害になっておったんですけど、まあ非常に、幸運というのはおかしんですけども被災された方がたくさんいらっしゃるんですけども何とか今のような状況に至ったというところでございます。基本、災害が起こりますと、非常にダメージのあった災害ごみの撤去があります、消毒作業を今やっております。それから今もお避難所におられます方の行き先、仮設住宅であるとかみなしの仮設、一般のアパートとかを借り上げるということで、とりあえずお住まいを見つけて差し上げること。それから罹災証明・被災証明を出していただいて、お見舞金ですとか各種減免措置をこれからとって。全体の被害の状況ですけれども、人的な被害、死亡が2人、重軽傷、これはまあ下原地区の事故に関して概ね38名、家屋の被害でいきますと全壊が7、半壊が7、一部損壊が18、これはまあ下原地区ですけれども。それから床上浸水・床下浸水これも下原地区とか昭和地区が中心であります、家屋の被害というのは全部で977戸になりました。それから道路水路、ため池、山林関係の山が崩れたり道路ののり面が崩れたりということで約500か所、それから農産物の被害でいきますと水稻や桃というところで概算で2億1千万円の損害。非常にまあ数十年ぶりというような大きな被害を総社市でも被っております。教育関係施設の被害で申し上

げますと、昭和地区が特に浸水がありましたので、昭和小・昭和幼、それから昭和公民館が床上浸水、それから新本小学校の北側の山が崩れております。あと、神在小・常盤小のガラスやドアの破損。これは爆発の関係です。それから社会教育系の施設でいきますと高梁川河川敷グラウンド・清音河川敷グラウンド・水辺の楽校、これはもう凄い増水しましたので相当な土砂がグラウンドの上ののっかっておりますし、整備中の高梁川河川敷グラウンドは芝を張ったばかりだったんですが、大分剥ぎ取られてですね、相当大きなダメージを受けました。あと、清音ふれあい広場ですとか山手のスポーツ広場でも崩れたりというようなことが結構ありまして、臨時議会が7月20日にありましたけども、教育関係の復旧経費が概算で3億2千万というふうにはじいております。その議会では全体の復興予算も出してありますけれども、総社市全体で17億2千万。概算ですからこれからまた動きますけれども、ざっとみてもそれぐらいの復旧費用が要るだろうということです。当然この中には壊れたものを直すということ以外にも、被災された方の仮設住宅ですとかお見舞金ですとかもろもろの対策を盛り込んだものですので、完全にハード面のことだけではないんですけれども、大きな予算の計上をしております。あと、伯備線がまだ全線不通、完全開通しておりません。今確か豪溪まで開通したんですけれども、実は特区の関係で、伯備線を利用して昭和の美袋の方へ通っている生徒さんがたくさんおられます。それから、日羽地区につきましては中学生辺りまで電車通学の関係で、これを当面どうしようかということで臨時の通学のバスを走らせました。今、JRが7月19日からですか、臨時の代行バスを運行しましたので吸収されましたけれども、それが運行されるまでは独自にバスを仕立て、学校関係の通学に出来るだけ支障が無いようにということもありました。また、高校生と専門学校の生徒さんが高梁新見方面から来ているとか、うちから行かれているということも結構あるということで、これは高梁市さんと相談しまして、同じようにいわゆる高校生バスというものを高梁方面との間で運行しました。これはいずれもJRのバスが運行を開始しましてから、そちらへ切り替えさせていただいたということです。

児島委員 JRの被害は総社地区ですか。

服部教育部長 もちろん。総社の美袋の手前辺り、日羽から美袋にかけて非常にダメージが大きくてですね、豪溪まではかなり早い時期に復旧したんですけれども、線路が浮いているようなところがあります。下の敷石が相当持っていかれまして、多分冠水してそういったことになったんだと思うんですけれども、今JRの見込みでは8月中旬くらいまでかかるかなあとあるんですが、学校の方は丁度夏休みに入りましたので、通学につきましては少し落ち着いているかなあとと思います。

少しこれからのことですが、実は避難者の方がまだたくさんおられると先ほど申し上げましたけれども、実は中央公民館、山手・清音の公民館につきましては、ほぼ真備からの避難者の方ですが、もう暫くやはりかかるということで、正式に倉敷市の方から、避難者の収容をもう少しお願いできないかということがございました。当然倉敷市の市内、

船穂地区にも順次避難所を整備しており、そこへも移っていただくという対策もしておりますけれども、もう暫くお願いしたいということもございましたし。あと下原地区の被災された皆さんというのは、西公民館と久代分館の2か所にいらっしゃいます。また昭和地区では昭和公民館を避難所として使っております、多分、今、申し上げた公民館は、公民館としてではなく、避難所としてもう少し使わないといけないということもありまして、地域の方にもう少し迷惑をかけるかなあとというふうに思っております。それからきびじアリーナが今、自衛隊の方が使っていただいております、これもやはり今の目安ではお盆頃までいろんな活動の拠点として占用されておる。サブアリーナにつきましても、いろんな支援物資の収納場所として少し使えない状態。それから仮設住宅の話が一つありましたけれども、なかなか公営住宅ですとか民間のアパートというのは数が無くてですね、いわゆる仮設住宅をどこかへ建てないといけない判断も出ております。場所ですけれども、候補地が西公民館の南側に少しまとまった大きさのグラウンドがありますけれども、そこを候補地ということで仮設住宅の建設を至急にやろうと。今、避難所にいらっしゃる方はやはりそういうことが。移っていただかない限りは避難所がずっと閉鎖できませんので、次の段階では仮設住宅の確保を全力でやっていくという動きをしております。それから、ボランティアの方も非常にたくさん来ていただいております。報道とかでは真備地区が非常に出ているんですけども、そういった中でも総社市にボランティアたくさん来ていただいております、7月10日から社協さんが中心になってしていただきましたけれども、土曜日くらいまでの集計なんですが、8800人ほどが来ていただきました。1日平均でいきますと700人強、最大では7月15日の日曜日、1540人のボランティアの方に来ていただいたと。当然被害がひどかった地域に入っていただいて、本当に暑い中汗を流していただいたということもございます。一般参加以外にも、高校とか大学からまとまった単位で来ていただいたことも1つ特徴的なことかなあと思います。ちょっとペーパーもなくて申し訳ないんですけども、今現在までの災害の状況・対応の状況ということで報告させていただきました。それから臨時議会の話は先ほど申し上げましたけれども、6月の議会で少し時期が遅れましたけれども6月24日から7月13日まで開かれまして、6月の議会の中の教育関係の予算でいいますと、5月くらいに遊具の事故がございまして、清音ふるさとふれあい広場の遊具が壊れてですね、児童の方が少し軽く怪我をされたと。で、老朽化が進んでおるので、これはもうやりかえようという判断を6月の議会の予算の中で2000万円の予算を一応計上しまして、すべて撤去して新しいものをまた作ろうということ年度の後半で予定しております。一般質問ですけれども、さまざまな質問がありまして、例えば大阪の地震で話題になりましたブロック塀の話がございまして、当然緊急の点検とかをしましたけれども、通学路を含めた安全はどうかというような質問もございましたし、日本遺産に認定されましたのでこれをどう活かすかという質問もございました。それからこれは建物、ハードの話ですけれども、教育委員会は非常にたくさん建物を持っておりまして、スポーツ施設などの指定管理を外部に委託しておりま

すが、こういった建物の保守とか更新について長期的な考え方をもってやらないといけないというようなご質問もございました。毎回一般質問では教育関係いろんな質問がございませけれども、ちょっと割愛して報告をさせていただきます。

山中教育長 それでは今の説明に対してご質問があればお願いいたします。

上岡委員 噂で聞いたんで本当かどうかお尋ねしたいんですけども、高梁川の総社市も危なかったという理由の一つにね、槇谷ダムの水が放水したら危なかったんだと近所の人が言うて、へえっと思ったんですけどそれは本当だったんですか。

服部教育部長 それ以外にも新見とかに大きなダムが三つくらいありまして、そこがどういった放水をするか直接的には影響は大きいです。高梁川に流れ込んでいる支流の川は市内に槇谷川も含めてたくさんありますけれども、本流はたくさん放流で水位が上がるので、流れ込む支流が流れ込まなくてその支流沿いが水が溢れてくる。小田川が結局そういう理屈なんですけれども。ですから、槇谷ダムもかなり増水をしており、これいろんな意見があると思うんですが、高梁川の上流にあるダムは単なる治水ダムではなくて発電とか目的があって放流の決定の管理を県がしておりますけれども。ですからこちらから言わせると、何で放流するのが今のタイミングでと非常にあるので。これは賛否あるんですけど、なかなかまあ、それであればダムが決壊するまで持ち堪えられるかという決壊すればもっと大きな被害になりますし、ダムがもっと計画的に雨が增える前にもっと放流しようということも意見としてあるんですけども、この辺りは今回の大きな被害が出たことを踏まえて、いろんな検討とかダムの放流のやり方とかいうのは少し見直しをされなければならないかなあと思っておりますが、まだどういった影響があったのかとか検証が十分出来ておりませんので、何とも言えないことはありますが、ただ総社市も危なかったというのは確かです。多分7月6日から7日にかけてというのは、現場でも相当水位を職員が出て行って見ておりましたけれども、本当に堤が切れるのを覚悟しないとイケないかなあという時期も本部の中ではありましたし、本当に大変な中でも幸運だったのかなあというふうに思います。

山中教育長 よろしいでしょうか。ほかに何かございましたらお願いします。

服部教育部長 教育関係の施設ではかなり避難所とかまだ提供しないとイケないという事情があって、多分地域の方からは、例えばスポーツ施設がいつから使えるようになるかとか、公民館の講座がいつから再開できるかという問い合わせも多いと思います。今回の災害というのは本当に局地的なもので、それ以外のところはほぼ日常の生活に戻っております、なかなか理解を得にくいところはあるんですけども、この辺りは本当に困られている方がいるのは確かです。こういった時にご協力ご理解いただくとお願いするしかないんですけども、もしそういった声がありましたら教育委員さんからも、場所の提供についてはご理解いただけるようにお力添えいただくと助かります。

山中教育長 よろしいでしょうか。では次回の教育委員会の日程についてであります。すでにご承知のとおり8月23日午後2時から開催いたしますのでご参集お願いいたします。

この際、9月の教育委員会の日程を調整したいと思いますが事務局から提案お願いいたします。

(9月の教育委員会の日程調整)

山中教育長 それでは9月の教育委員会は、9月28日午前9時30分からでよろしいでしょうか。

山中教育長 それでは最後になりますが、議案第20号「平成31年度使用中学校教科用図書採択について」の審議に入ります。本件につきましては、教科用図書に関わる議案であり、案件の内容から非公開とさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

山中教育長 では、非公開といたします。

【非公開審議】

では、これで審議が全て終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

【閉 会】

閉会 午後3時32分

上記記録している内容は、正確であるので署名する。

平成 年 月 日

教育長

委 員

職 員